

実践報告

保育者養成における保育実践力育成に関する研究—V

—運動遊びを通じた交流実践報告—

吉 江 幸 子

星槎道都大学研究紀要

第4号

2023年

## 実践報告

# 保育者養成における保育実践力育成に関する研究—V

## —運動遊びを通じた交流実践報告—

吉 江 幸 子

### 要約

2022年度に2回実施した保育交流体験はラグビー部員が企画、進行した。保育専攻学生は子どものサポート役として参加したが、このことが対面観察ではなく横並びの関係性で接し、進行方法をよく観察できることを学生レポートで確認した。運動発達に応じて経験したい36の基本動作を視覚的に整理することにつながることも確認した。

### 1. 研究の目的

本学の地域連携協定締結先である由仁町（北海道夕張郡由仁町）にある保育園児を対象とした交流事業の研究は、2017年度から継続して実施しており、今年度は6年目となる。当初は打ち合わせや振り返りも含め年間で13回の交流を続けてきたが、2020年度はコロナ禍の影響により訪問回数が激減した。それでもリモート型交流を試みたり、空間が広く間隔も取りやすい外遊びを企画、実践したりしながら2022年度は6月と11月の年2回、ラグビー部員と社会福祉学科の学生が合同で遊びを実践する機会を得ることができた。

このような機会を通して子どもと直接遊ぶ体験、しかも保育課程ではない学生たちが企画した案で実践活動を体験し、保育課程の学生や課程以外の学生との関わり方の違い及び運動発達に応じて経験しておきたい基本動作について検証する機会となった。以下、幼児期の運動遊びの意義について触れながら、実践報告とする。

#### 1-1 幼児期の運動遊びの意義

幼児期に育つ運動能力についてはさまざまな研究がある。保育現場において、体力・運動能力向上のための活動として「運動遊び」が重視されているが文部科学省(2012)は「幼児期運動指針」における幼児期の運動発達に応じて経験しておきたい「36の基本動作」について取りまとめた。これは文部科学省が2007年度から3年間にわたり全国21か所の市町村で展開した各種調査の分析や効果的な実践事例等を掲載している実践事業報告がベースとなっている。

#### ①身体のバランスを取る時の基本的な動き

立つ・組む・乗る・逆立ち・渡る・起きる・ぶら下が

る・浮く・回る

#### ②体を移動する時の基本的な動き

走る・登る・歩く・跳ねる・泳ぐ・跳ぶ・くぐる・滑る・這う

#### ③用具などを操作する基本的な動き

持つ・支える・運ぶ・押す・当てる・掘る・抑える・捕る・振る・こぐ・渡す・投げる・倒す・引く・打つ・つかむ・積む

以上の動きを図解し、運動推進のために保育教育者の関わりを説明している。

また、保育所保育指針(2017)及び保育指針解説(2018)においても、3歳以上の保育のねらいと内容の基本事項に、全身を巧みに使いながら様々な遊びに挑戦する時期であるため発達特性を踏まえた運動遊びにおける基本的動作の獲得と遊びの保障について述べている。

たとえば鬼遊びの種類の中に、保育現場でよく遊ぶ「むっくりくまさん」(原曲:スウェーデン童謡)がある。日本の伝承遊びの一つ「かごめかごめ」のような目隠し鬼遊びである。この遊びでは、中央に座って目隠しをするクマ役(鬼)の周囲を他の子どもたちが輪になって歌いながら回り、歌が終わると同時にクマが立ち上がって捕まえる遊びである。この遊びを36の基本動作で確認すると、目隠しをしている子どもにとっては、立つ・歩く・走る・跳ねる・つかむ等の動きが複合的に含まれていることがわかる。保育活動の中で多様な動きを獲得していく運動遊びの体験は、子どもの発達段階に即した活動の一つと言える。

### 2. 研究の方法

本学と地域連携協定を締結している由仁町（北海道夕

張郡由仁町)にある保育園児と学生との交流事業を対象とした。子どもとの運動遊びによる交流を通し、ラグビー部員が企画した活動実践において、保育専攻の学生が捉えた子どもの姿がどのようなものか学生アンケートから明らかにするとともに「36の基本動作」がどの程度含まれているか、実践記録を使って学生とディスカッションする。子どもの発達と運動遊びの運動性に関する学生の視点を考察する。

## 2-1 対象及び実践活動日

〈6月10日〉

- ・学校法人由仁学園三川保育園3～5歳児
- ・ラグビー部員(経営学科6人・社会福祉学科1人)
- ・社会福祉学科子ども保育専攻7人

〈11月25日〉

- ・学校法人由仁学園三川保育園5歳児
- ・ラグビー部員(経営学科7人・社会福祉学科1人)
- ・社会福祉学科子ども保育専攻4人

## 2-2 事前計画案の作成

ラグビー部員が考案した遊びは以下のとおりである(表-1)。

表-1. 運動遊び計画

<p>▶ 6月 運動遊び(園庭)</p> <p>①タイ・タコゲーム ②ラグビーボールリレー ③障害物ジャンプ ④ラインアウト(ボールキャッチ) ⑤ボール集め ⑥タックル</p> <p>▶ 11月 運動遊び(屋内)</p> <p>⑦器械運動(前転・後転) ⑧腕振り立ち幅跳び ⑨ジョギング ⑩カード集め競争 ⑪フラフープくぐり ⑫整理体操</p>
--

以上の運動遊びの指導計画として以下のような援助的配慮を話し合った。

〈6月 運動遊び(園庭)〉

- ①タイ・タコゲーム：タイかタコか、言葉を聞く前に子どもが動くとの衝突の可能性
- ②ラグビーボールリレー：ボールを落とした時の補助
- ③障害物ジャンプ：障害物を跳んで越える際の転倒に留意
- ④ラインアウト：大人の背丈を越える(地上2メートル以上)位置に子どもを抱えてボールを受け取るため、

子どもの臀部から大腿部にかけて支える

- ⑤ボール集め：コーナー(地面)にボールを置くため、視線が下にある。ボールを持って走ったときの衝突回避に対する留意
- ⑥タックル：タックルバッグを支える人数と地面への転倒防止

〈11月 運動遊び(屋内)〉

- ⑦器械体操：マットを使用、前転・後転の際の手と手首のつき方を説明し補助する
- ⑧腕振り立ち幅跳び：腕を振ることを意識する言葉がけ
- ⑨ジョギング：学生が先頭を走り、スピード調整する
- ⑩カード集め：他児と衝突しないよう、カードは広げて配置する
- ⑪フラフープくぐり：輪が115cmで大人用のため、補助が必要
- ⑫整理体操：筋・関節をゆっくり伸ばす説明が大切

## 3. 結果

6月は雨天時の代替案を用意したが交流当日の天候は晴れ、予定通りに園庭で実践した。気温が高く、30分置きに3回水分補給の時間を設定した。11月は保育園に隣接する会館ホールを借用し、室内で実践、休憩は1回設定した。どの活動も楽しく遊ぶことができた(写真1.2参照)。

まず初めに学生アンケートから「子どもの姿」の捉えについて表-2にまとめた。

次に、今年度2回実施した運動遊びの内容をもとに写真、動画を用いて保育士養成課程の1年生と一緒に36の基本動作について確認し、一覧表にした。

その結果は、表-3のとおりである。

## 4. 考察とまとめ

6月・11月ともに計画立案はラグビー部員が作成した。参加した保育士養成課程の学生がどのように観察・参加したかを考察する。

〈6月 運動遊び〉

6つの遊びのうち、説明→実施→結果発表(勝ち負け)の遊びと、説明→実施の遊びがあった。表-2の学生A、Eのレポートにもあるように、「タイ・タコゲーム」は右へ逃げる・左へ逃げるという説明だったため、4.5歳児にとって左右の区別がつきにくい子どもがいること、説明時に絵表示等視覚的なものがあると良いことに気づいている。また、繰り返して遊ぶことで子どもが次第に



写真1. 6月③障害物ジャンプの様子



写真2. 11月⑩整理体操の様子

ルールを学習していることにも気づいていた。

学生Gのレポートでは、ラインアウト時の観察について述べている。

2m以上の高さ上げられることに不安や興奮の声があり泣き出す子どももいた。子ども自身が感情を言葉で表現できないために泣いたり地団駄踏んだりする姿と捉えるが、コミュニケーション時間が短い学生にはそこまでの理解と援助は難しい。泣いている子に「一緒にやってみよう」という言葉がけは不安を抱いている子どもにとって安心感につながるだろうか。第一に子どもの安全基地になるという共感的理解が必要であった。結局、対応を保育士に任せることで子どもが落ち着き、再び挑戦した姿を見た学生たちは、子どもの不安回避の方法を学ぶことができたと考える。

#### 〈11月 運動遊び〉

6月同様に6つの運動遊びをラグビー部員が準備した。6月の反省を土台に1つずつ計画書を作成し、保育専攻の学生も対応しやすいように工夫がされていた。ラ

表-2. 保育専攻学生が捉えた「子どもの姿」

<p>▶ 6月</p> <p>A：ゲームなどのルールを口頭で説明するだけでは理解するのがまだ難しそうだったので、見本を示すと良いと思った。</p> <p>B：実際に子どもたちがゲームをすることで徐々にルールを理解していきっているように感じた。</p> <p>C：勝ちたいという気持ちが強いのかみんな本気でゲームに取り組んでいてとても可愛らしかった。</p> <p>D：障害物ジャンプの時は、最初は上手くできるかという不安や落ちたら怖いという恐怖が見られた。実践するにつれて、次第に不安や恐怖が見られず、積極的になっていた。また、繰り返しているうちにどんどんスピードが速くなっていくのがわかった。</p> <p>E：タイ・タコゲームでは、ルールを理解出来ていなかった子どもたちが多かったが、全力で走って逃げたり追いかけたりしていて、ルールが分からなくても自分たちですぐに行動にすることが出来ることに驚いた。</p> <p>F：障害物ジャンプの際にバランスを崩した子にすぐ支えられるよう全員が注意深く見ていたため、怪我することなく楽しめた、観察は大切だ。</p> <p>G：ラインアウトは、怖がっていて挑戦することが出来なかった子どもに対しての接し方がわからなかった。お友達と一緒にやってみようや、他の子どもから〇〇ちゃんも一緒にやろうとさそってみるなどしたが、やはり挑戦する直前に出来ない、やりたくないという不安があった。結局三川保育園の先生に、任せてしまうことになった。</p> <p>▶ 11月</p> <p>H：マット運動の後転を連続でできているのが凄かった。</p> <p>I：カード集めでドラえもんや炭治郎を集めるゲームの時に、本物のキャラクターを集めつつも時間が1回目より2回目の方が早い事に気が付いた</p> <p>J：子どもたちの受け答えもはっきりとしていて分からない事は、「分からない」「なぜ」などの質問があり、遊びに集中していることが伝わった。</p> <p>K：どのようにすると楽しんでもらえるのか、どのようにすると子どもたちに分かりやすく伝わるのか、今回の訪問を通じて学ぶことが出来た。</p> <p>L：自分達が当然のようにできることでも、年齢によっては難しい事や、説明が理解できないということ再認識することができた。</p> <p>M：器械運動の前転方法や整理体操の後屈を説明する時、先輩が具体的に話していて参考になった。</p>
--

グビー部4年生で教育実習を終えた学生の考案である。実習経験が生かされた取り組みであり、保育専攻の1年生にとっては非常に学ぶべき点の多かった企画運営であった。

全身運動を取り入れた遊び、しかも部活動で準備運動や整理運動として実践しているものを取り上げ、子どもにわかりやすい言葉で実演・絵表示を交えながら進化した。

以下、学生のレポートから振り返る。

表-2の学生K, L, Mの発言にもあるように、4年生の説明が具体性に富み、子どもにもイメージしやすい表現であることに学生も気づくことができた。それは保育

表-3. 運動遊びと基本動作の関連性

遊び内容		6月運動遊び						11月運動遊び					
		①タイ タコ	②ボール リレー	③障害 物	④ライン アウト	⑤ボール 集め	⑥タッ クル	⑦器械 運動	⑧腕振 り	⑨ジョ ギング	⑩カー ド集め	⑪フラ フープ	⑫整理 体操
36 基本動作	立つ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	組む		●		●		●					●	●
	乗る			●	●		●						
	逆立ち							●					
	渡る			●									
	起きる						●	●					●
	ぶら下がる				●								
	浮く												
	回る							●					
身体を移動する	走る	●	●	●	●	●	●		●	●	●		
	登る			●	●		●						
	歩く	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		●
	跳ねる	●		●	●		●			●			
	泳ぐ												
	跳ぶ			●	●		●		●				●
	くぐる								●			●	
	滑る			●									
	這う			●					●		●		
用具などを操作する	持つ		●	●	●	●	●		●		●	●	
	支える			●	●	●	●	●	●		●	●	●
	運ぶ		●			●			●		●	●	
	押す						●	●					
	当てる												
	掘る												
	蹴る							●	●				
	押さえる			●	●		●	●	●		●	●	●
	捕る		●		●	●					●		
	振る									●			
	こぐ												
	渡す		●		●	●					●		
	投げる		●		●	●							
	倒す						●						
	引く												●
	打つ												
つかむ	●	●	●	●	●	●		●		●	●	●	
積む													

5 10 14 16 10 15 9 12 5 11 8 9

専攻学生にとっても初めての遊びであるが彼らが理解でき、横にいる子どもに言葉や動きで伝えることができるという全体的コミュニケーションがとれていたことによるものと考えられる。

具体的説明の例としては、

○器械運動（マット使用）の前転・後転説明の際、手のつき方を「紅葉の葉っぱ」みたいに指をひらくとどう

なるか、「4本の指がくっつく（動作で示す）」とどうなるか説明

○整理体操の上体反らしでは、「王様が偉そうに笑っている」時の姿勢で「わっはっは」と声を出すという説明で、子どもたちは上体反らしを実践している。このような姿を間近で見ても、子どもに対する親近感や愛おしさ、そして理解しやすい説明方法を学んだことが伝

わるレポート内容であった。

説明の際に子どもたちが前傾になり集中する様子を見た学生たちが、帰学後に刺激されたことは言うまでもない。子どもだけに特化した内容でなくても普段大人が実践している運動を利用し、発達段階を理解して組み込めば子どもも十分に楽しめることがわかった。

次に運動遊びの36基本動作を説明し、マトリクス表を作成した(表-3)。視覚的に捉えることでどのような動きが組み込まれているか、もっと多くの基本動作を含む遊びはないかという発展的学習へとつないでいくことができた。

例えば6月に実施した③障害物ジャンプでは、身体を移動する動作は多く含まれるが用具の操作的動きは少ないので発達段階により道具を追加する遊びができるのではないかと、あるいは11月の⑩カード集めでは、身体のバランス動作を取り入れた遊びを組み合わせると良いのではないかとといった発想が生まれる。また、④ラインアウトや⑥タックルの体験が多くの基本動作を含むことがわかったが保育専攻の学生だけで取り組める遊びかどうか、どのように工夫すると良いかなど今後の目標発見にもつながった。

例年の地域交流では保育専攻の学生が企画運営するため、子どもを理解する時間よりも進行に神経を費やし、子どもとの直接的接触やゆっくり観察・参加するまでには至っていなかった。今年度のように子ども側について遊ぶ実践は、一緒にゲームに加わることで子どもの動きや声、表情、感情表現を対面的ではなく横並びの関係性で観察することができる。学生にとって子どもと遊ぶことが単純に楽しい、と思える体験は子どもと触れ合う機会が少ない学生にとって、保育士になりたいという職業選択へのつながりでもある。また、子どもにとっても園内で関わる大人だけでなく地域社会とのつながりと言う意味の交流体験になる。

最後に、学生アンケート(学生C)のレポートにあるように、携わった子どもを「可愛らしい」と表現する学生の育ちこそが、保育実践力向上の基本と考える。

#### 謝辞

本研究は、地域連携協定締結先の由仁町にある学校法人由仁学園三川保育園及び保育職員の方々の協力による成果です。

コロナ禍にありながらも直接交流の機会を提供していただいた皆様に感謝申し上げます。

#### (参考文献)

- 文部科学省(2012). 幼児期運動指針. 幼児期運動指針策定委員会.
- 厚生労働省(2017). 保育所保育指針平成29年告示. フレーベル館.
- 厚生労働省(2018). 保育所保育指針解説. フレーベル館.
- 内閣府(2018). 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説. フレーベル館.
- 文部科学省(2017). 幼稚園教育要領 平成29年告示. フレーベル館.
- 文部科学省(2018). 幼稚園教育要領解説. フレーベル館.
- 岸本美紀・権法珠・小野隆・水野恭子・宮腰宏美・矢藤誠慈郎(2020). 地域における世代間交流活動への参加が教師・保育者をめざす学生の認識に及ぼす影響—社会貢献の観点に着目して—. 日本保育者養成教育学会 第4回プログラム・抄録集 p.76.
- 吉江幸子(2021). 保育者養成における保育実践力育成に関する研究—Ⅲ. 星槎道大学研究紀要 第2号 pp 99-104.

# Study on training practice ability of nursery care for nurturing teachers-V

— practical report on exchange through athletic play —

YOSHIE Sachiko

## Abstract

In 2022, I carried out two times of childcare interchange experiences. Rugby club ran it twice. The student who studied childcare participated as a support role of child. As a result, I was able to observe a progress method while spending time with a child happily. I confirmed it by a student report. I was able to arrange 36 basic movement that I wanted to experience depending on the exercise development visually.